

平成 29 年 3 月 22 日

## 3 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産は間伐中心にフル生産、入荷も平年を上回る。荷動きは製品需要の一服感と入荷量の増加でスギ柱材需給が急速に緩和、大手工場は原料手当てを続けるが慎重な姿勢に変化。スギ柱材の引合いは順調、中目材は変化なし。ヒノキは柱材の引合いは好調だが中目材は弱い。価格は好調のスギ柱材が大幅に値を下げ、中目材も弱保合となっている。ヒノキは柱材が横這い、中目材は弱保合で推移。

群馬の製材工場は 3 月も受注が好調、原木も潤沢なため順調な稼働続く。原木出材は順調で集荷しやすく、原木在庫は通常より少し多め。製品販売は全体的に順調、製品市場からの注文も首都圏中心に増加傾向だが、3 月末以降は見積りが少ない。製品在庫は注文品生産に追われ比較的品薄。母屋・桁・貫・間柱が品薄状態。価格は全般に低位安定だが柱は少し値上り。来年度の公共事業の受注は順調の模様。

### 2. 米材

輸出向け丸太の産地情勢は、2 月前半は天候不順で出材が絞られたが、後半は天候が回復したこともあり出材は順調に推移。産地港頭在庫は 2 月前半に材待ちによる滞船が生じたが、後半からの出材増加に伴い回復し、現在は在庫積み増し中。ウエアハウザー社の 3 月積み対日米マツ価格は、前月積比で据え置き。1 月の米材丸太の入荷量は 227 千 $\text{m}^3$ で昨年並みのペース。出荷量は 213 千 $\text{m}^3$ で先月と同等。在庫量は前月比 14 千 $\text{m}^3$ 増の 255 千 $\text{m}^3$ 。日本国内の米材工場は 1 月半ばから売行き鈍り 2 月も同様の展開。2 月に入り米国製材品市況が高騰、SPF は 3 週間で 25%上昇。米商務省による報復関税が決定された場合、遡及されて課税期間が始まるのが 2 月となるため、2 月に入り相場は荒れた展開となっている。

米製材品の TLT(東京木材埠頭)2 月の入荷量は 25 千 $\text{m}^3$ (前月比 12.5%減)、出荷量は 28 千 $\text{m}^3$ (同 2.3%減)。在庫量は 45 千 $\text{m}^3$ (同 4.5%減)。1 月の米国住宅着工は、年率換算 124.5 万戸で前月比 2.6%減。ランダムレンジス紙 3/3 の 15 種木材価格平均は、\$ 410/M で 1 月末比 15.5%アップ。SPF の現地価格は 1・2 月に春先の需要期に向けた買付増と米国に輸出する際の相殺関税が遡及適用とな

ると、1/24 以降分から関税がかかるため強い値上げ市況となっている。先行き例年に比べプレカット工場も忙しく今後も大きな落ち込みは無いと予想。

### 3. 南洋材

サバは旧正月後伐採が徐々に再開しているが少ない原木をインドと取り合い、丸太相場は引続き強含み。製材品も台湾や韓国向けが好調で価格は保合。サラワクは山間部に雨がまだ多いことや原木伐採規制強化の定着で出材は非常に悪く、太材良木の手当は年々厳しく価格も強気配を保っている。PNG ソロモンはマレーシアの出材低調が続く中で、インドや中国需要が旺盛で相場は強含み。丸太の入荷は横這い、出荷は増加、在庫は横這い、製材品の入荷は増加。丸太の販売は合板・製材用とも平年並み。円安と現地高の影響を受けた玉が出回り始め、特にインドネシア集成材関連は現地価格が高いため、値上がり幅が大きい。

### 4. 北洋材

シベリア地域の伐採は順調だが、エゾ・トド・カラマツの比率が高く日本向けアカマツ丸太は不足。輸入製品は中国、日本の購買意欲が依然高く、原料価格は高止まり。丸太価格はエゾマツ・カラマツ \$ 160、アカマツ \$ 175 で強保合続く。製材品は現地挽き上級グレードが依然強含み、国内挽きは値上げトライ中。アカマツ原板は \$ 380 で強含み。荷動きは現地挽き 3.0cm×4.0cm 上級グレード強含み、3m タルキは鈍い。国内完成品は良質グレード、胴縁・貫が引続き堅調。国内の北洋材製材工場は通常の稼働、特注品で採算維持、1月の原材料調達丸太が前年同月比減、原板は依然入荷少ない。上級材・特殊材の受注多いが対応難しい。

### 5. 合板

原料丸太のうち国産材の入荷は順調で価格はカラマツが高値張付き。ロシア材は出材減が続く中で需要が多く価格も上昇。米材は降雪で出材に影響、価格も上昇中。南洋材は雨期と旧正月の影響で出材少なく価格は高値張り付きのまま。1月の国内合板総生産量 24.1 万 m<sup>3</sup>のうち、針葉樹合板は 22.8 万 m<sup>3</sup>で冬場の効率の悪さから、前月比 1 万 m<sup>3</sup>減だが昨年並み。出荷量は 23.5 万 m<sup>3</sup>と昨年を 2 千 m<sup>3</sup>下回った。在庫量は 8.3 万 m<sup>3</sup>、うち構造用合板は 7.1 万 m<sup>3</sup>で依然として低水準の状態。国産針葉樹合板の 3 月販売価格は横這い。年明けてから先月までは大幅な値上げもあり、流通では旧値の玉が入り混じり価格のバラツキが見られた。納期遅れ解消の目途がはっきりしない中、今後も同様な状況が続くと予測。

国産針葉樹合板の品薄状態は続いている。需要のピークは越えたが、生産効

率の低下や在庫量の少なさから出荷量は増えず、受注残の解消には至らず。輸入合板の荷動きは全体に落ち着いており、一部生型枠の在庫は少ないが、動きも悪いことから需給に見合った状況。先行き国産針葉樹合板は、いまだ多くの受注残があり急激な市況の変化は考えにくい。輸入合板は荷動き、価格ともに一服状態の中で、このまま推移すると思われる。品薄品目は針葉樹合板全般。

## 6. 構造用集成材

入港は順調だが現地でコンテナ確保が厳しく、春以降の入港遅れが懸念。QTR2ラミナ交渉は船運賃の上昇のため、ユーロ価格はアップすると予想。集成材の価格はラミナ価格上昇で値上げの動き。値上げ幅は3月以降RW梁桁で2,000円/m<sup>3</sup>、WW柱で30円/本と予想。WW間柱は現状品薄感なく値上げの動きなし。国産集成材の受注は引続き好調。販売・荷動きは良好で、RW梁桁は品不足が続く。販売先行きはプレカット加工部門で先延ばし物件が多く、メーカーには受注残もあることから、4月までは販売が旺盛の見込み。在庫は受注残が多いため極少。輸入集成材は現地積遅れが慢性化しており、供給の不安定化は拭えない。現地大手の供給は4月積は通常の下半分以下となっており、先々の入港は減少の見込み。

## 7. 木材チップ

チップ原木の入荷状況は、天候の影響により一部地域で低調。解体材はおおむね例年並み。消費は針葉樹中心に使用増の傾向。燃料用は例年並、FITの新設計画もあるが、需給は落ち着いている。在庫は一時減少したが回復。針葉樹チップ価格は横這い。輸入チップは為替レートの変動に伴い価格は値下げ傾向。国内チップ工場の操業状況は例年並みだが、工場間で稼働率に二極化の傾向。

## 8. 市売問屋

国産材の構造材はスギ・ヒノキKD柱の入荷少ないものの、ここにきて買方の反応が鈍い。造作材は建具・内装とも需要期に入り比較的順調な動き。外材の構造材は米マツ等米材の動きが国産材同様鈍い。造作材はスプルー・米ヒバに纏まった動きが出ており堅調。昨年末あたりからバタ角等土木用材を扱う買方が忙しく活気を呈している。一般建築材は入荷も少ないが、仕事量も少ないので落ち着いた動き。

## 9. 小売

国産材の構造材はスギKD柱・小割・板、ヒノキKD柱・土台いずれも保合。外材はロシアアカマツタルキ保合だが良材少ない、米ツガ角・平割とも強保合、

SPF 保合、WW 間柱保合。造作材はスプルース・ピーラー平割保合、タモ・ナラ平割保合。集成材は WW、RW の柱・梁保合。合板は国産針葉樹は強保合、輸入品は保合。プレカット工場は見積・加工とも順調。工務店は依然新築は少ないがリフォームの仕事が出てきている。

3月の需給・価格動向

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	→	→
南洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↘	↘	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ柱(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギ間柱 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×4m	→
米材	丸太	産地価格 国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ	→
			米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角(GR) Std&Btr S4S 4・1/8” 13’	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
		米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→	
南洋材	丸太	産地価格 東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー	→
			メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格 東京・問屋店頭 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
			ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産) 同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD) 30×40上級	↗
			アカマツ(KD) 16×40上級	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗